



No.6

Nico Nico ニコニコ

カナダ・カルガリー出身でハンガリー、オーストラリア、エクアドル（サンタクルス島）など、各国の文化に触れてきたニコールさん。独自の感性を持つ文化コラムに出あえるかも知れません。

Aloha a hui hou
 It's no secret that I love to travel. The first place I can remember going to is what I also now consider a second home. I have been fortunate enough to spend countless hours on the beaches of Kauai, Hawaii. Kauai is the oldest in the archipelago of volcanic islands that make up the state of Hawaii. Due to its age, it has had time to develop a variety of vegetation, giving it the nickname the Garden Isle. As much as I love the island as a whole there is one particular spot that I claim as my favourite, Hanalei Bay. The bay looks like it was taken straight off a movie set (in fact the movie South Pacific was filmed here and the cartoon Lilo and Stich is based here). The 2 miles of golden sand beach are framed by volcanic mountains that overflow with waterfalls. I learned to surf here surrounded by sea turtles and rainbows; it is completely surreal. The beach is a tight knit community; there is always an old fisherman at the end of the dock ready to "talk story" and an array of local characters to keep you entertained for hours. It's not only the scenery but the people that have kept me going back year after year.

Let's learn a few words in Hawaiian

- Hello - Aloha- アロハ
- Thank you - Mahalo- マハロ
- Women- Wahine - ワヒニ
- Man- Kane - カネ
- Hana (bay) Lei (Garland of flowers) = ハナレ

アロハ

私が旅行好きなのはもうご存じだと思います。旅行先として最初に思い出す土地は、今や私の第2の故郷。幸運にも数え切れない時間をハワイカウアイのビーチで過ごしてきました。

カウアイはアメリカ・ハワイ州の火山群島では最も古い島です。そのため多様な植物群落があり、ガーデンアイランド（庭園の島）の愛称を持ちます。

島全部が好きですが、中でも特に気に入っているのがハナレイ湾です。そこはまるで映画のセットを切り取ったみたいなどころです（実際、映画「南太平洋」はここがロケ地ですし、漫画「リロ&スティッチ」もここが舞台です）。

滝があふれる噴火山に縁取られた黄金色のビーチが2マイルも続きます。ここでウミガメや虹に囲まれながらサーフィンを楽しみました。まったく浮世離れています。ビーチはそれ自体が非常に密接なコミュニティーです。埠頭（ふとう）の端まで行けば、いつだって年老いた漁師がいて、喜んで昔話をしてくれるし、大勢の地元民がいて何時間でも楽しませてくれる。景色も素晴らしいけれど毎年毎年帰ってしまうのはそんな人々のせいです。

ハワイの言葉を学びましょう。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

「ハワイ」というと日本ではオアフ島のことを指すことが多いですね。アメリカだということを忘れてしまいがちですが、ハワイはアメリカの50番目の州です。ちなみにアラスカが49番目。どちらも1959（昭和34）年のことです。その度に星条旗の青い部分にある白い星「☆」が増えました。ところで、ハワイは1年間に8センチメートルずつ日本に近づいているとか。もうちょっと近くなるといいですね。

言いながら、生徒に対して申し訳ない気持ちになります。経済情勢も厳しいご時世、希望の高校に入れるのがなにより優先です。とはいえ、生きた言葉であるはずの英語を「テストに出る」の一言で教え込む。悲しいです。本当は「もっと自然な形で」と思います。でも同じ表現が教科書に一度しか出てこない、生徒にはそれがどれだけ大事か実感が湧かないのです。この教科書の語数の少なさには参ります。

生徒は、もともと英語の蓄積（インプット）がないのに、学校でとにかくルール（文法）だけを詰め込まれる。私たちは自動車免許を取る時、交通ルール（規則）を学びながら車の運転

英語教育指導員 宮地晶子の
エイゴのマナビカタ

第71回
入試に出るよ

技術も学びます。でも中学校では規則（文法）しか教えない。生徒にとっては、使わないもののルールだけ学んでも楽しいわけがない。この現状をなんとかしたくて、昨年は選択授業で多読を試みました。限られた時間でしたが、生徒たちは100冊前後の本、語数にして1万2千語ほどを読みました。教科書に出てくる単語は3年間に2千語程度ですので、その6倍もの英語に触れたことになりました。何より良いことは、どの本でも比較級、疑問文が自然な形で何度も何度も出てくることです。これなら生徒は英語を生きた言葉としてとらえることができる、と思いました。

年度末に生徒を対象に行ったアンケートでは、全員が「多読を続けていけば力がつきそうな感じがする」と答えました。「おもしろかった」「英語が好きになった」など、英語を「楽しい」ととらえている回答が寄せられました。「入試に出る」だけの英語ではなく、よく使われている「言葉」として、英語に興味を持ち始めてくれたのです。